

# 特集 編集者が 学生時代に読んだ本

## 「ハリー・ポッター」シリーズ 全7巻

J. K. ローリング/作 松岡 佑子/訳 静山社

私の中高生時代はハリー・ポッター抜きには語れません。特に高校生の頃は、「ハリーの世界に行きすぎないように」と通信簿に書かれてしまうほど常にそばにありました。

宿命を背負った男の子ハリー・ポッターが多くの出会いと別れを繰り返しながら、忍び寄る悪に立ち向かう物語。巻を重ねるごとに試練もどんどん過酷さを増していく中、支えてくれる仲間たちと共にたくましく成長していきます。

ホグワーツの一員になって、ハリーたちと一緒に冒険してみませんか？

## 『創竜伝』 既刊14巻

田中 芳樹/著 天野 喜孝/カバーイラストレーション 講談社 講談社ノベルス

中学生だったと思いますが、初めて読んだ時はちょっとびっくりしました。文章が2段に分かれていたのです。ノベルスという言葉を知ったのもこの頃だったような。

人並み外れた身体能力を持つ竜 堂兄弟。平穏を望みながらもトラブルに巻き込まれるどころか向こうからやってきてしまう彼らは実は四海竜王が現代に転生した姿だったのです。日本を、世界を舞台に現代と神

話世界が入り乱れての大活劇。個性の強すぎる登場人物たちにも注目です。

今回紹介している『創竜伝』シリーズ、実は図書館に3種類あります。何が違うか比べてみてね。

## 『謎解きはディナーのあとで』 全3巻

ひがしかわ とくや 東川 篤哉/著 中村 佑介/装画 小学館

大企業をいくつも抱えている「宝生グループ」の令嬢かつ新米警部の宝生麗子と、麗子に毒づく執事が織りなす本格ミステリ。

この本は、私が中学生の頃にとっても流行っていた本です。私が初めて読んだ本格的なミステリですが、ユーモアたっぷりの内容で、とても読みやすい本です。

## 『バケモノの子』

細田 守/著 山下 高明/カバーイラスト KADOKAWA 角川文庫

母親を亡くし、叔父の家に引き取られる時に渋谷に逃げ出した主人公の蓮。そこで熊徹というバケモノに出会います。その熊徹についていくと、そこにはバケモノが暮らす世界「渋谷天街」がありました。

蓮は熊徹に九太と命名され、熊徹の弟子にされてしまいます。

“人”と“バケモノ”この2つの生き物にはどのような違いがあるのでしょうか。蓮と熊徹の関係は、不器用ながらも心温まるものを感じます。ぜひお読みください。